

台湾研修の記録

台湾研修日程表

3月23日（日） 11:00 関空発 13:15 台北桃園国際空港着 午後観光
3月24日（月） 午前 第一女子高級中学訪問
午後 観光
3月25日（火） 終日班別研修
3月26日（水） 午前 建国中学訪問
昼食後 13:55 桃園空港着 15:55 台北発 19:20 関空着

台湾研修を終えて

国語科 H.A

今回の台湾研修の最大の目的は、台北市立建国高級中学校（建国中学）と台北市立第一女子高級中学校（北一女高中）への訪問でした。この2校は修学旅行で北野高校を訪問してくれていましたが、北野高校の生徒が台湾を訪問するのは初のことでした。この研修には1年生8名、2年生4名が手を挙げ、チャレンジしてくれました。

建国中学では丁寧な歓迎の挨拶、バイオリンの見事な演奏など、圧倒されるほどの歓迎に始まり、生徒一人に複数の生徒がついてくれ、丁寧な説明をしてくれました。引率教員の私にも生徒2、3人がついて図書館の中を案内してくれました。そこで『戦国策』という中国の古典をみつけたので、「日本には漢文というものがあって、この中の一話を勉強したんだよ」というと「僕たちにとっても昔の中国語はなかなか読めず難しいんだ」という話をしてくれました。台湾では中国の古典はあまり勉強しないようでした。一方でそんな彼らは英語がとても堪能でした。と同時にコミュニケーション能力も高く、これまた圧倒されっぱなしでした。後に本校の生徒に感想を聞いたところ「英語のペーパーテストをしたら同じくらいかもしれないけれど、いざコミュニケーションを取るとなると・・・」ということを率直に感じたようでした。また、参加させていただいた数学の授業もなんとも活気がある雰囲気の中で行われていました。その雰囲気に本校生徒も「こういう点はすごくいい」「でも北野高校の授業のこういう点がいいのだとも改めて感じる」など、自分たちの中であれこれ気づくことがあったようで、生徒の感受性の豊かさや、意識の高さに感心しました。しっかり見ることをしてくれているんだということがわかってう

れしかったです。肝心の数学の方はというと・・・得意な者には簡単、苦手な者には難しくといった様子でとなりの台湾の学生と一緒にって取り組む姿勢がほほえましく映りました。

学校訪問以外にも、台湾の有名施設を巡りました。パワースポット？としても観光客に人気の「龍山寺」では、ガイドさんに教えてもらっておみくじを引きましたが・・・もちろん中国語でかいてあるので、ガイドさんに訳してもらったのですが、喜ぶ者がっかりする者、悲喜こもごも、バスの中で大盛り上がり。そのおみくじには漢詩が添えてあって、「古典の時に習った句形だ！」などと読もうとチャレンジしている姿もあり、国語の教師の私としてはとてもうれしい光景でした。また、現地の大学生の案内で台北市内を巡ったのも貴重な体験になったようです。

今回の研修を通して、グローバル社会におけるアジアのエリート教育がどういうものであるかを見た気がしました。建国中学の男子生徒も北一女高中の女子生徒も将来の夢をきくと「日本の〇〇大学に留学して日本語を学びます」や「ニュースアンカーになりたいです」などと堂々と語ってくれたのが印象的でした。北野高校の生徒も劣るとは思いません。コミュニケーションをとる機会を増やして行けば今ある力を生かせるはずです。自分というものをしっかり持った上で、コミュニケーションの道具となる英語力を身に付けていてほしいと思います。

参加した生徒にとっても、英語を母語としないアジアの国の同世代の高校生が、英語で積極的にコミュニケーションを取る姿勢に触れたことは非常に刺激的な体験だったにちがいありません。今回は、初の台湾研修ということもあり、戸惑うことも多く緊張を強いる場面もありましたが、そんな中で前向きに参加し 3 泊 4 日の行程を通してお互いを尊重して行動してくれた 12 人の生徒を非常に誇りに思います。背中を押して送り出してくださった保護者にも感謝します。彼らには今後の人生を通して、この研修をぜひ意義あるものにしてほしいと願っています。

以下は「台湾研修を終えて」という題で参加者が書いた感想文です。

2 年 1 組 K・M

バスの車窓から台湾の森が見えます。ブロッコリーのような、もこもことした広葉樹林の林冠が、幹線道路の両脇に続いているのです。のびのびとした木々に感動を覚えます。ここ台湾では、気温、降水量ともに広葉樹が育ちやすい環境なのでしょう、木々はことごとく高く、立派なのです。そんな木々が森を形作っています。植生の違いに、異国情緒を感じました。建国中学の中庭に生えていた木も、二十メートルはあるのではないかと思います。シュロも元気に育っていました。素晴らしい。もちろん、植生ばかり見ていた私ではありません。しっかり台湾を見てきました。

私達が訪れた第一女子高級中学校や建国高級中学校の教育水準には驚かされます。私たちと同じ歳ですでに英語はペラペラ、第二外国語も習っています。いえ、授業は台湾語ではなく北京語で受けていますから、第三外国語ということになるのでしょうか。授業にスマートフォンを使っていた事も衝撃的でした。教育の密度が日本とはケタ違いです。

そしてなにより、今回の研修で最も印象に残ったのが台湾学生による立法院占拠でしょう。私達が台湾にいた間、三月十八日に始まった台湾学生による立法院占拠が続いていました。それは、中国に対するサービス分野の市場開放を阻止しようとする運動で、後に太陽花(ヒマワリ)学運と呼ばれるようになります。治安部隊と学生が衝突する事もなく、静かな運動だったようです。台湾の学生の政治に対する関心、そして、毅然とした行動力には目を見張るばかりです。明らかに台湾は日本よりも民主主義が成熟した国家だと思われました。

台湾の人たちは優しく、素敵な人ばかりです。私の乳幼児並みの英語も笑って見過ごしてくれました。英語が出来る人も、全く出来ない人も、学生の内に海外に出てみるものです。今まで受験勉強に思っていた英語が、意思疎通のツールとして意識できる筈です。海外研修は必ず良い経験となるでしょう。

最後に、台湾研修を企画して下さいった北野高校の先生方、そして第一女子、建国中の先生方、ありがとうございました。

2年5組 I・S

台湾での研修は、とても楽しい思い出になると同時に、新たな課題の発見でもありました。

僕は、台湾には二回目でしたが、一度目は小さいころに家族と旅行で行っただけだったので、この研修をととても楽しみにしていました。そして、実際に台湾では楽しいことばかりでした。

印象的だったのは、九份の街や夜市でとても人間味が感じられたことです。人でいっぱい、活気にあふれていて、お祭りのときのような不思議な一体感がありました。そこで食べた臭豆腐や他の食べ物は、日本のものと一風変わっていて面白かったです。台湾自由探索では、大学生の人に案内してもらいながらあちこちを見て回り、市場や淡水では果物やお菓子を買って食べながら歩いて回りました。その時、お店の人たちはもちろん向こうの言葉で、僕たちは日本語でしたが、通訳をしてもらわなくても身振り手振りで結構通じて、うれしかったのを覚えています。

このように、台湾での時間はとても楽しかったですが、力不足を感じる時もありました。それは、台湾の学校と交流をした時です。僕たちは二つの学校を訪れ、そこの生徒さんたちに迎えていただきました。英語や、上手な人は日本語で話しかけてくれて、いろんなこ

とをしゃべって有意義な時間を過ごせました。でも、向こうの人たちは英語がとても上手でしゃべりかけてきてくれても、僕は英語が分からずに上手く会話がつながらないことが何度もありました。ジェスチャーで何とか伝わったり、向こうが言葉を言い換えてくれたりして何とかなることも多かったのですが、通じきらずに会話が終わってしまうことも少なくなく、とても申し訳なかったです。英語に対する最初の経験値は同じはずの台湾の人がこんなに英語をしゃべれることは衝撃的でした。自分の力不足を感じ、今までより一層英語を頑張って勉強しようと思いました。

今回の研修では、いろんなことを経験して、教科書に載っている以上のことを学びました。ただ楽しいばかりのものではなく、自分の世界が広がり、新たな課題も発見できた、とてもいい旅だったと思います。本当にありがとうございました。

2年5組 S・S

台湾での研修期間は、私にとってとても貴重な経験となりました。

初日から台湾の諸観光地をたくさん巡り、台湾茶や小籠包など美味しい食べ物をそれはそれはたくさん食べました。「千と千尋の神隠し」のモデルとなった九份の街や、中でも、有名な衛兵交代式は、聞いていたとおり本当に1ミリも動いていなくて感激しました。実際に観ることができてよかったです。

植民地時代の影響か、台湾には日本企業や日本の製品が非常に多くてとても驚きました。現在でも日本と深く繋がっている台湾。私はなんだか感動して思わずたくさん日本のお菓子を買ってしまいました。

今回の研修の目的の、台湾第一女子と建国という台湾で一番優秀な学校との交流では、日本が誇る「おもてなし」に負けないくらいの歓迎を受けました。両校とも、今回訪問する私たちのために、日本語や日本文化のことをとてもよく勉強されていたのが伝わってきて、とても嬉しかったです。英語でコミュニケーションを取るのは慣れていなかったのですが、おかげで現地の学生との交流を楽しむことが出来ました。

第一女子では、学校案内を受けた後、体験授業を受けました。私のグループは英語でのプレゼンテーションをすることになりました。第一女子の生徒との交流はないと伺っていたので戸惑いっぱなしでしたが、暖かく受け入れてくださったので助かりました。生徒との交流では、日本のアイドルグループなどの話で盛り上がりました。年齢が近いのでとても親しみやすく楽しかったです。

建国中学では、まず始めに生徒たちによるオーケストラの演奏による歓迎がありました。学生とは思えないほどのクオリティでとても驚きました。学校案内の中で私が特に印象に残ったのは、図書館でした。参考書や各科目の専門書の数が圧倒的に多く、そこが日本との違いだなと思いました。体験授業では数学の授業を受けました。中国語を英語に訳して

もらいながらだったのですが、英語力の足りなさを痛感しました。建国中学の生徒たちは本当に勉強熱心で、その姿勢は私たちも見習わなければならないと思われました。

今回の台湾への訪問は、ここには書ききれないくらい刺激的で充実したものでした！学校訪問で感じたことを忘れずに、これからの勉強に生かしていきたいと思います。機会があればまた台湾をじっくり観光したいです！

2年6組 H・M

今回台湾研修に参加させてもらって、四日間という短い期間であったにも関わらず、台湾を満喫することができました。現地の二校との交流や台湾の観光名所を巡り、とても充実していました。英語を話す機会が多いのかと思っていましたが、実際は学校訪問の時からほとんど中国語が中心でした。私は中国語を話したことがなかったのですが、ガイドさんや引率してくださった先生のおかげでなんとか少しだけ話せるようになりました。

台湾での経験は本当に全てが楽しく思い出に残っているのですが、その中でも特に第一女子高級中学校での交流が1番印象に残っています。ここでは英語中心だったのですが、生徒の方々が日本語がペラペラだったので日本語で話すことも多々ありました。第一女子高級中学校では校内案内後に実際に英語の授業を受けさせてもらいました。元々は校内案内だけの予定だと聞いていたので、予想外の展開に驚きを隠せずにはいられませんでした。すると、さらに予期せぬ出来事が重なりました。なんと先生に「英語で日本のことをプレゼンしてください」とお願いされました。私は言葉がでませんでした。本当に即興で内容を考え、ネットから画像を拾ってなんとか「桜・たこ焼き・太陽の塔」についての説明を四人でしました。話したことが全て理解してもらえたかどうかは分かりませんが、みんな笑顔で聞いてくれていたので安心しました。しかし、この時私は自分の英語力のなさを実感しました。いきなりだったということもありますが、発表の時になかなか自分が言いたいことを英語で伝えることができず悔しかったです。台湾の生徒の方々は公用語は中国語にもかかわらず、英語や日本語をスラスラと話せていたのでとても尊敬しました。日本ではできないような経験をして、自分の弱点を知ることができました。

今回の研修に関わってくださった全ての方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。一期生として参加できて良かったです。

今回の台湾研修では、多くのことが勉強になりました。台湾の文化、料理、人々などいろいろありますが、最も印象に残ったことは、台湾の建国高校でのことです。この高校は男子校なのですが、英語の、まさに「運用能力」が驚異的に優れていて、感心するばかりでした。それと同時に、自分の英語のつたなさに恥ずかしくなりました。やはり、英語というのは、国際的な交流には必須のものだと実感しています。できないと、その字の通り「話にならない」のです。それを強く認識できただけでも、勉強になったかなと。

次に反省として、思うことは、コミュニケーションというのは、何も言葉だけではないということ。英語がつかないならば、何か手品や一発芸でも考えておくべきです。初対面の相手と、しかも、英語で打ち解けるなんてほぼ不可能です。だから、何かその場を軽くするようなものが必要です。自分は全然そんなもの用意していなかったで……。もしくは、会話する内容を事前に紙にでも書いておいて、それを覚えて話すべきでした。気のきいた会話なんて、その場ではまず思いつきません。このことは、特に英語が苦手な人は、参考にしてもらえたら、と思っています。

以上のことは、勉強になったこととして、良かった事です。

しかし、この研修についてもう一度考えてみます。

本当に行く必要があったか？

この高校一年という時期に。この短期間で。

確かに、多くのことが学べました。しかし、英語の技能に関して考えると、行かなくてもよかったかもしれません。必要性は強く認識できましたが、もっと学んでからでもよかったのではないかと、思います。別に高校生の時から海外に行く必要はないかもしれません。大学生の時にでも、社会人になってからでも、遅くはないと思うようになりました。特に今回のような短い期間は、旅行のようなものです。本気で勉強するならもっと長い期間が必要でしょう。自分は事前に深く考えずに参加したので、後の人には深く考えてもらいたいです。メリット・デメリットについて考え、目的意識を持って判断して下さい。

以上の事が、今回の研修の反省と感想です。

僕はそもそも海外が大好きです。日本と違う風景、食文化、人々と触れ合うことがとても新鮮で、機会があれば常に行きたいと思っています。今回はそんな三つの楽しみの中でも、台湾の食文化を楽しみに、飛行機に乗り込みました。

一日目に、両替をしてもらおうお茶の店で烏龍茶、東方美人茶、プーアル茶を試飲しました。ゴマのせんべいと、台湾では有名なパイナップルケーキも付いています。伝統のお茶

の淹れ方で、まずは烏龍茶が手元に注がれました。特徴的な黄金色をしたその烏龍茶は香りがとてもよく、少し甘みを含んだ味で、喉を通りきった後も鼻に抜ける香りに浸るほどでした。次の東方美人茶は、なんでも紅茶と烏龍茶の中間の発酵度だそうで、紅茶の香りと烏龍茶の爽やかさがあり、少し果実のような甘みも持っています。さらに、完全な紅茶ではないので渋みは全くありません。本当に美味しくて、感動しました。こいつは緑茶を超えたと感じました。そして最後のプーアル茶、クセ物でした。長年熟成させるほどに価値があがり、香りも増すらしく、僕たちが試飲したのはなかなかの高級品だったので香りが強かったです。森のコケ、そんな感じの香りでした。健康に良さそうだなと感じながら飲み干しました。このプーアル茶の茶葉は、台湾では料理にも使われていて、それらは少し食べ辛かったです。

三日目、自由行動のときに、有名な中華料理屋のティンタイホンに行きました。小籠包が食べたかったのにその時点でまだ食べていなかったのですごくウキウキでした。小籠包の他にラーメンやスープ、チャーハンなどを頼み、中華風の円いテーブルで待ちました。いいにおいがプンプンしています。これまでの台湾での食事は、少し独特の風味があって、僕はそれが苦手だったので不安もありました。しかし、運ばれてきた料理はそんなこと心配してごめんなさいと言いたくなるほど輝いていて、美味しそうな湯気がたっていました。小籠包は生姜醤油によくあっていたし、すこしピリ辛の肉の出汁がきいたスープはあっさりしていて美味しかったし、チャーハンやラーメンも日本とは少し違って、本場だなあと感じさせられるものばかりでした。台湾に来てよかったと思った瞬間でした。

千と千尋の神隠しの舞台のモデルとなったところ、101 タワー、学校交流、お寺や博物館、様々な場所を訪問し観光し、その風景や日本と違う文化に圧倒されましたが、やはり食べ物が1番印象に残りました。みんなであの独特の円いテーブルを囲んで楽しく話しながら、ときにテーブルを回して料理を譲り合いながら過ごした時間は、かけがえのない思い出になりました。

2年7組 Y・T

台湾研修二日目、僕たちは台湾高級女子中学を訪問しました。この学校は、日本で言うところの女子高等学校で、台湾全土の優秀な生徒が集まっています。僕たちと交流したのは、この学校にある国際交流を行うグループの皆さんです。皆さん日本語がとても達者で、中には日本人かと思うほど流暢に話す生徒の方もおり、とても驚きました。

学校の紹介や施設の案内などのあと、僕たちは何人かの班に分かれて授業に参加させられました。僕の班が参加したのは体育の授業です。今はバレーボールをやっているそうで、早速着替えてグラウンドへ向かいました。班のメンバーは男子四人でした。最初は周りが女子ばかりという状況にドギマギしていた僕たちですが、周りから怪しむ

目線を感じます。どうやら、僕たちが参加することは知らされていなかったようです。

お互い少しよそよそしい雰囲気の中、練習が開始。練習はゲーム形式で、四人だった僕たちは二人ずつになってチームに参加しました。始まってすぐは、ボールを落としてしまったり、同じボールを取り合ってしまったたりしていました。お互いにコミュニケーションを取れていなかったからです。しかし、言葉はあまりよく分かりませんでしたが次第に声を出し合ったり、身振り手振りで指示を出し合ったりとコミュニケーションが取れるようになっていきました。後半になると、みんな楽しく笑いながらプレイしていました。授業が終わると、一人の生徒が寄ってきて、僕たちに何か話しました。聞くと、今日はクラスメイトの誕生日だから僕たちにも一緒にお祝いしてほしいとのこと。僕たちは向こうの生徒のみんなと一緒にバースデーソングを歌って、最後には記念撮影をしました。

たくさんの言葉が使えることは、コミュニケーションにおいてとても良いことです。しかしそれ以前に、相手を理解しよう、理解したいという積極的な姿勢が大事だと思います。頑張って言葉を捻り出して、出てこなくても身振り手振りで伝えようと努力すること。それこそが国際交流の第一歩なのではないかと、今回の研修旅行の中で僕は感じました。

2年8組 Y・S

今回の台湾研修、3泊4日と短いものでしたが、大きく2つの成果が得られました。

まず第一に、異なる文化との交流です。台湾の街を歩く男性の刈り上げ率の高さ、信号が変わるまでの秒数をカウントしてくれていること、トイレの配管が狭いため排泄に使った紙を流してはいけないこと、市場で売られていた見た事のないフルーツなど、日本との違いが多々あり、とても新鮮な体験ができました。その一方で観光で行った寺院にどこか日本風な雰囲気を感じたりと、違いがあることによってわかる共通点も見えました。

次に、私自身の意識の変化です。この研修の目的として台湾の高校2校に訪問したのですが、どちらの生徒の方々も英語がとても上手でした。スライドショーを使った学校の紹介や校内の案内をしていただきましたが、その時に質問してもタイムラグなく返答してくださり、英語で会話する脳内回路が出来ているんだなと思いました。質問の英文を組み立ててから口に出していた私とは大違いでした。しかもそれを英語が母国語でない同年代の人がやっているということが、とても良い刺激になりました。英語を教科としてではなくコミュニケーションツールとして捉えられるようになり、その下地を作るために、英語の授業にも意識的に参加できるようになりました。

さて、私には2つの成果しか得られませんでした。これを読んでいるあなたには、3つも4つも新たな発見があるかもしれません。このような機会があれば、ぜひ参加してみ

てください。

3年2組 T・Y

台湾は日本と違うところがたくさんあり、とても興味深く、貴重な経験ができた3泊4日となりました。観光のことも書きたいのですが、文字数の関係で、特に日本と違って驚いたことを書きたいと思います。

まず、台湾の高校についてです。

私たちは2日目と4日目にそれぞれ台湾一優秀と言われている女子校と男子校を訪れて交流しました。

交流する時、日本の高校生だったら異国の人に緊張して恥ずかしがるという人が大半だと思いますが、台湾の高校生は緊張するどころか、興味を示し、積極的に話しかけてくれてすぐに打ち解けることができました。会話はもちろん英語だったのですが、向こうの人はびっくりするくらい堪能でした。台湾の人は基本、中国語や台湾の言葉を使います。しかし、国際社会で生きるにはそれらの言葉は通じる人が少なく、英語が必須になるため、6歳ころから英語を習うのが一般だそうです。そうした事情で向こうの人からしてみれば英語はしゃべれて当たり前でした。こちらは授業で中学から英語を習っているのにも関わらず、いざ実践となると手も足も出ませんでした…。校舎を案内してもらった後、英語と数学の授業に参加させてもらいました。授業中に机の上にスマホや iPod があり、飲み物を飲みながら授業を聞くような自由なところもありますが、何より、授業が完全に生徒主体であることに驚きました。生徒がみんな積極的で、生徒同士で考えあい、先生は補助するというようなスタイルで“勉強すること”を楽しんでいました。

次に、台湾の文化についてです。

横断歩道の信号機の赤になるまでのカウントダウン、夜市のにぎわい、電車での飲食は罰金、トイレトペーパーは流さずゴミ箱に入れること、バイク(しかも2人乗り以上)の多さ、食文化など様々な日本との違いがあり、おもしろかったです。

この研修を通して、新たな発見がたくさんできました。みなさんも参加してみてはいかがでしょうか？

3年2組 N・H

私にとって初めての台湾。3泊4日は充実していてとても思い出深いものとなりました。観光面では、3つ挙げたいと思います。

忠烈祠では1mmたりとも動かない衛兵を実際に見て感動しました。交代式も衛兵全員が

揃った動きで、兵役の厳しさを垣間見た気がしました。兵役と所縁のない、日本人である私にはとても新鮮でした。夕方頃に行った台北 101 では頂上からの景色がとても美しく、日が沈みはじめて周囲の建物が明かりをつけ始め、徐々に美しい夜景に変わっていくその瞬間を目の当たりにして、移りゆくその景色に感銘を受けました。

そして、私がこの研修に参加しようとした最大の理由である故宮博物院の見学。古き時代の隣国の美術品をたくさん見れることに魅力を感じて、すごく楽しみにしていました。中はとても広く、中でも翠玉白菜や肉形石といった有名な作品を間近で見られてとても嬉しかったです。

また、台湾の女子校と男子校の2校にお邪魔して台湾の授業の雰囲気などを見学してきました。文字数の関係で女子校の感想だけ書きたいと思います。

女子校では、日本語の流暢な生徒さんに校内を案内していただいたり、実際に英語の授業を受けたりしました。その授業内で驚いたのが、日本では正解にマルをつけるのに対して、台湾では間違えたところにマルをつけること、そして何より圧倒的な英語力です。先生も生徒も英語で会話していましたし、英語で冗談を言い合えるほど英語を自分のものにしていたのが印象深いです。

この研修を終えて、もっと様々な国の文化に触れ、学び、理解したいという思いが強くなりましたし、そのためにももっと勉強しようと思いました。

3年5組 N・M

私の台湾のイメージは小籠包でした。しかし実際行ってみて、色々な面から台湾を見ることができ、私のイメージは大きく変わりました。

一番ショックを受けたのは言語です。観光では、パワフルな添乗員さんやお店の人が、日本語で対応してくれたので、困ることはなく本当に助かりました。しかし、学校交流は共通言語が英語でした。例えば、体験した英語の授業は全部が英語で、英語の冗談にみんなが笑っていて圧倒されるばかり、また1対1で学校案内してもらうこともあり、私は単語をつなぐのに必死でした。通じないときももちろんありましたが、その中でわかってもらえたときはほんとうに嬉しかったです。

最近、現代文の授業で、相手の言語を知ることは相手を理解しようとする、といったような評論文があり、台湾旅行のことを思い出しました。もちろん、表情やジェスチャーでなんとかなります。でも、言語はもっと幅を広げてくれるようです。台湾の子と連絡をとるとき、私は電子辞書が離せませんが、英語でやりとりすることでようやくどんな子かわかるようになりました。初めはすごく抵抗がありました。間違っていたらとか、あいづちとか何となく恥ずかしくなります。でも相手は優しく、わかろうとしてくれるし、間

違っていたら教えてくれることもあります。笑

観光の面でも台湾の人の優しさはたくさんありました。行くまでは、正直もっと怖そうなイメージで、かばんをとられたりすると聞いていたので、ドキドキしてましたが、添乗員さんはもちろん、私たちのことを全く知らない人もとてもフレンドリーで、どこでも歓迎してくれました。実際行ってみないとわからないことは本当にたくさんあって、今回たまたま研修に参加したことで、一部を知ることができました。これを機に、もっともっとたくさんの人と出会って成長していきたいです。

やっぱり本場の小籠包は絶品でした。

3年6組 S・K

私は、この台湾研修で初めて台湾に行きました。中国語は全く話せなかったので行く前は不安でした。しかし、実際は色々と楽しむことができました。

この研修旅行では、4日間という短い期間にもかかわらず、忠烈祠や九份や故宫博物館などの名所へ行くことができ、現地の高校生や大学生と交流できたことがとてもよかったと思います。

その中で、私が最も印象に残ったことを3つ書きたいと思います

1つ目は、『台北市立第一女子高級中学校』（略して『北一女』）に行ったことです。

『北一女』は日本の高校にあたり、台湾の女子高の中で最難関の高校です。そんな学校の、交流会の他に授業体験もさせてもらいました。私は、2年生のクラスで英語の授業を受けましたが、スピードも速く、生徒どうし英語でジョークを言い合い笑えるほど英語が堪能でした。

2つ目は、“台湾のベネチア”と呼ばれる『淡水』で台湾人大学生と観光した事です。台湾人大学生は親日家で、日本語が流暢でした。私が、「本屋さんに行きたい」と頼むと『誠品書店』へ案内してくれたので、本を買いました。途中で道に迷うというハプニングもありましたが、通りがかりの台湾人がiPhoneで調べて一生懸命に道を教えてくれました。その優しさに、感動しました。

3つ目は文化の違いです。台湾ではトイレットペーパーをトイレに流さないこと、電車の中では飲食禁止で破ると罰金になること、電車の優先席が必ず空いていることです。日本とこんなにも近いのに文化がこれほど違うことに驚きました。

今回が第一回目の研修旅行だったので、予定変更も多々ありましたが、良い経験になりました。これをきっかけに、語学をもっと勉強しようと思いました。